民主主義の旗
第46号
発行所
民主主義学生同盟
全国委員会編集局
(一部20円)

米軍撤退、沖縄奪還、B52撤去、野戦病院粉砕

4.26 佐藤内閣打倒 学生ゼネストに起て!!

侵略拠点を撃破せよ!

27、28野戦・国会包囲 全国大動員へ!!

二月二十一日のジョンソン声明は多くの偽瞞をはらみつつ、"アメリカ帝国主義の敗北"の宣言であった。それは"エスカレーション戦略の破棄"撤退"の不可避性をアメリカ帝国主義自らが認めたという意味をもつ。しかし、この声明の持つ偽瞞性は、声明発表四時間後のタンホア爆撃によって暴露された。基本的にはこの声明がドル危機へのアメリカ帝国主義の選択による転換であるが故に偽瞞的な平和を追求する余地を残している。

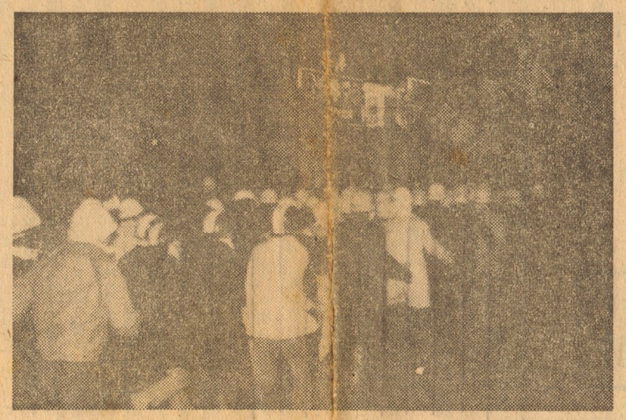
我々は"米軍の撤退と南ベトナム解放民族戦線の承認"の原則に立って始めて真の平和がかちとられることを明らかにしなければならない。その為に偽瞞的な和平を拒否・封殺する闘いを集中的に強化しなければならない。佐藤内閣はジョンソン声明で大きなショックを受けた。南ベトナム訪問後「北爆支持」を表明し、日米共同声明によってベトナム侵略への協力を約し、日米帝国主義の略奪軍事同盟の強化、その第一弾としての核空母エンタープライズ号寄港へと七〇年安保条約長期固持の路線―アジア・核安保体制を直進してきた。ジョンソン不出馬声明に際し自民党内部からも「佐藤の社長が倒れたのだから、支店長も交代すべきだ」とまでいう声があり、これまでの外交路線に対する責任が問われている。

われわれは、侵略者ジョンソンの最大の支柱佐藤内閣を追撃打倒する事によって真にベトナム平和の為に闘っている南ベトナム解放民族戦線と連帯しうるし、国際的な任務を果すことができるのだ。

アメリカ帝国主義が真にベトナム戦争の段階的縮少の方向を実行するなら、王子野戦病院閉鎖、B52の沖縄常駐体制は不必要となるであろう。しかしジョンソン声明の発表された四月一日佐藤内閣は王子野戦病院閉鎖反対のデモ隊へ凶暴な血の弾圧を加え、一市民を虐殺したのだ。アメリカの帝国主義と佐藤内閣の偽装和平策謀を粉砕し、"南ベトナム解放民族戦線の承認"の原則を承認させる闘いを勝利的にかちとらねばならない。

急転換する国際関係の中で、佐藤政府は依然として侵略加担の露骨な攻撃をやめてはいない。エンター寄港以後の日本帝国主義は、日米共同宣言の具体的措置を、日本本土・沖縄の全土総基地化に設定した。

ベトナム戦争のテト攻勢以降の窮迫に応じ、全面参戦国体制への質的な移行を、軍事・政治・イデオロギーの全戦線にわたってかけてきている。沖縄の嘉手納基地へのB52の常駐・ベトナム直接出撃を頂点として、本土の在日米軍基地・施設の基地機能の侵略エスカレーションがとみに激化している様相を呈して、日本本土・沖縄は直接して、戦場の直接の後方陣地の役割を果している。



野戦闘争を闘う自治会共闘

軍の輸送機のラッシュにみまわれている。さらに洗濯施設は、米軍の破壊された兵器類の積み込み、積み出しがはげしい。一口で言えば兵器、物資、兵士の補給、修理中継が大規模にエスカレートしているのだ。さながら臨戦体制化の様相を呈して、日本本土・沖縄は直接して、戦場の直接の後方陣地の役割を果している。

B52は、ベトナムへの直接爆撃機、"核"戦略爆撃機であり"殺人の黒い翼"と呼ばれている。B52は250キロの通常爆弾108発搭載の北爆攻撃機であり、最大装備時では、24メガトン大型水爆、弟積載可能、ICBMミニットマン48発分の攻撃力を持つ。沖縄は「極東において不可欠な米軍基地であり、……海外で他に気がねせず自由に原水爆を出入れ出来る海外唯一の核兵器庫」(ワシントンポスト紙)といわれる。核基地の島沖縄の即時無条件全面返還の闘いの重要な要素であるB52撤去を断固闘いとらねばならない。また、野戦病院は現在日本に、埼玉県の朝霞、狭山(ジョンソン)、神奈川県相模原の座間と、米陸軍総隊司令部、横須賀海軍施設、横浜の鶴見、相模原の座間と、米陸軍の強化拡大し、七〇年安保粉砕をめざす佐藤内閣追撃戦を組織することが、今や必須の課題となっている。

この追撃戦を学生戦線において成功裏に闘いとるには、激動の七〇年安保闘争を支える不屈の戦闘的政治同盟=民学同の質的飛躍をかちとることである。激烈な現地闘争と学園ストの有機的結合の典型的闘争を創出した現地自治会共闘の闘いを継承し今年七月ベトナム反戦安保粉砕全国学生自治会共闘結成を実現させることである。四・二六B52撤去・野戦粉砕・沖縄奪還・佐藤内閣追撃全国学生ゼネスト四・二七・二八日王子・国会包囲全国動員を闘いとり、春季自治会選挙圧倒的に勝利すること、それこそが七月全国自治会共闘結成への決定的条件である。正に七月全国自治会共闘結成こそ、ベトナム―沖縄―七〇年安保闘争展開の組織的軸である。

内外情勢の激動的再編成

戦後世界帝国主義体制の支柱ドル・ポンドによる国際通貨管理制度は、ドル危機とポンド切り下げによって今や根底的動揺を示している。且つ、ベトナム侵略戦争の破綻、つまり先進国危機と後進国危機の同時的進行が深化し、世界帝国主義の再編成が開始された。かかる世界史的転換は、ベトナム人民の不屈の闘いを軸とする国際反帝統一戦線の強化によってなされつつある。ジョンソン声明は、世界帝国主義体制の盟主米帝の後退戦における最後的「帝国主義的和平」の提案である。その背景には、ドル危機の異常な深化と、予想以上のテン沢で進む米帝内の上層の危機と下層の危機を反映している。われわれはその偽瞞性の暴露に留まらず、その危機の底深さを生み出した今日の世界的力関係を正確に評価せねばならない。

米帝とのいわゆる「運命共同体」=日米独占間の階級同盟の強化を、アジア戦略の展開軸にせんとした佐藤政府独占の七〇年核安保構想の前提条件が崩壊つつある。潜剰生産恐慌と国際的条件の悪化に伴なう日本資本主義の構造的脆弱性・階級関係等を含む日本の反共政策とその集大成である前米帝のアジア反共諸国の歴訪とその集大成である前米帝の対日政策は、佐藤はベトナム訪問を含む一連の国際的新植民地主義の方向性を確認し、東南アジア人民に対する侵略・抑圧体制の強化を日本独占は企図した。加えて国内階級配の強権的安定化の為、各階級階層に対する個別撃破正面突破作戦を挑み、重層的体系的略奪政策を展開した。それが七〇年アジア核安保戦略に収約されるのである。

しかし独占の思惑とは裏腹につつある。内外の危機の鋭さと奥深さ故に、佐藤一派の必須条件である独占支配の意志統一が大きく乱れ、佐藤内閣が孤立させる客観的条件が成熟し始めた。今や我々は、エンター闘争で示された全人民的反撃を発展させ、追撃戦を組織する時期に到達した。

全士参戦国化を打破せよ!

侵略拠点を撃破せよ!

佐藤内閣の強権的政治反動と累積せる日本資本主義の諸矛盾が、各地で爆発しつつある。米軍需品輸送拒否闘争を組織した国労は、五万人合理化反対闘争を四月下旬、戦後最大のストライキで闘おうとしている。七〇年安保の環をなす沖縄では、主席選挙を二つの里程標とし、労働者階級のゼネストが四・二八第二波、三三第二波と全軍労を軸に準備されている。米国内でも黒人反乱に続き四・二六国際学生ストライキの呼びかけが全世界の闘う青年、学生へ発せられた。帝国主義者が策動するベトナムにおける「帝国主義的和平」を拒否し、必ず人民的和平=米軍撤退をかちとらねばならない。その道は一般的な「ベトナム反戦勝利の年にしよう」というカンパニア闘争ではなく、全士参戦国化=ベトナム侵略拠点の撃破、加担者佐藤内閣打倒→安保破棄を実現しうる力関係を創り上げることである。そのための戦略的環は沖縄の即時無条件全面返還であり、沖縄―ベトナム侵略の基地として、核基地として使わせない事である。持続的次B52水爆積載・爆撃機撤去を組織する中にこそ、我々の国際主義的責務をはじめ、十王子野戦病院粉砕を両軸とし佐藤内閣追撃戦を展開しうるのだ。それは四月闘争の爆発的高揚をなしうるか否かにかかっている。

主張

今春期闘争を闘い 七〇年安保闘争へ!

全国の学友諸君!疑いもなく七〇年闘争は開始された。内外情勢の新たな展開とわけ米帝の危機の告白たるジョンソン声明発表後の情勢の中で、羽田・佐藤安保闘争が切り開いた地平をさらに拡大し、七〇年安保粉砕をめざす佐藤内閣追撃戦を組織することが、今や必須の課題となっている。

この追撃戦を学生戦線において成功裏に闘いとるには、激動の七〇年安保闘争を支える不屈の戦闘的政治同盟=民学同の質的飛躍をかちとることである。激烈な現地闘争と学園ストの有機的結合の典型的闘争を創出した現地自治会共闘の闘いを継承し今年七月ベトナム反戦安保粉砕全国学生自治会共闘結成を実現させることである。四・二六B52撤去・野戦粉砕・沖縄奪還・佐藤内閣追撃全国学生ゼネスト四・二七・二八日王子・国会包囲全国動員を闘いとり、春季自治会選挙圧倒的に勝利すること、それこそが七月全国自治会共闘結成への決定的条件である。正に七月全国自治会共闘結成こそ、ベトナム―沖縄―七〇年安保闘争展開の組織的軸である。

内外情勢の激動的再編成

戦後世界帝国主義体制の支柱ドル・ポンドによる国際通貨管理制度は、ドル危機とポンド切り下げによって今や根底的動揺を示している。且つ、ベトナム侵略戦争の破綻、つまり先進国危機と後進国危機の同時的進行が深化し、世界帝国主義の再編成が開始された。かかる世界史的転換は、ベトナム人民の不屈の闘いを軸とする国際反帝統一戦線の強化によってなされつつある。ジョンソン声明は、世界帝国主義体制の盟主米帝の後退戦における最後的「帝国主義的和平」の提案である。その背景には、ドル危機の異常な深化と、予想以上のテン沢で進む米帝内の上層の危機と下層の危機を反映している。われわれはその偽瞞性の暴露に留まらず、その危機の底深さを生み出した今日の世界的力関係を正確に評価せねばならない。

米帝とのいわゆる「運命共同体」=日米独占間の階級同盟の強化を、アジア戦略の展開軸にせんとした佐藤政府独占の七〇年核安保構想の前提条件が崩壊つつある。潜剰生産恐慌と国際的条件の悪化に伴なう日本資本主義の構造的脆弱性・階級関係等を含む日本の反共政策とその集大成である前米帝のアジア反共諸国の歴訪とその集大成である前米帝の対日政策は、佐藤はベトナム訪問を含む一連の国際的新植民地主義の方向性を確認し、東南アジア人民に対する侵略・抑圧体制の強化を日本独占は企図した。加えて国内階級配の強権的安定化の為、各階級階層に対する個別撃破正面突破作戦を挑み、重層的体系的略奪政策を展開した。それが七〇年アジア核安保戦略に収約されるのである。

しかし独占の思惑とは裏腹につつある。内外の危機の鋭さと奥深さ故に、佐藤一派の必須条件である独占支配の意志統一が大きく乱れ、佐藤内閣が孤立させる客観的条件が成熟し始めた。今や我々は、エンター闘争で示された全人民的反撃を発展させ、追撃戦を組織する時期に到達した。

全士参戦国化を打破せよ!

侵略拠点を撃破せよ!

佐藤内閣の強権的政治反動と累積せる日本資本主義の諸矛盾が、各地で爆発しつつある。米軍需品輸送拒否闘争を組織した国労は、五万人合理化反対闘争を四月下旬、戦後最大のストライキで闘おうとしている。七〇年安保の環をなす沖縄では、主席選挙を二つの里程標とし、労働者階級のゼネストが四・二八第二波、三三第二波と全軍労を軸に準備されている。米国内でも黒人反乱に続き四・二六国際学生ストライキの呼びかけが全世界の闘う青年、学生へ発せられた。帝国主義者が策動するベトナムにおける「帝国主義的和平」を拒否し、必ず人民的和平=米軍撤退をかちとらねばならない。その道は一般的な「ベトナム反戦勝利の年にしよう」というカンパニア闘争ではなく、全士参戦国化=ベトナム侵略拠点の撃破、加担者佐藤内閣打倒→安保破棄を実現しうる力関係を創り上げることである。そのための戦略的環は沖縄の即時無条件全面返還であり、沖縄―ベトナム侵略の基地として、核基地として使わせない事である。持続的次B52水爆積載・爆撃機撤去を組織する中にこそ、我々の国際主義的責務をはじめ、十王子野戦病院粉砕を両軸とし佐藤内閣追撃戦を展開しうるのだ。それは四月闘争の爆発的高揚をなしうるか否かにかかっている。

七月ベトナム反戦・安保粉砕 全国学生自治会共闘結成へ

我々は、七〇年安保の前段闘争=訪ベト訪米阻止闘争―エンター闘争で形成され始めた闘いの新たな質を継承し、層としての学生運動の戦闘的再生に歩を進めた。訪ベト訪米―エンター闘争を最も戦闘的大衆的かつ原則的に闘った現地自治会共闘を支えた我が同盟は、三月の第九回全国大会で激動の七〇年安保闘争を担う不屈の戦闘的段階同盟の建設」を確認し、構成派学生運動のヘゲモンとして三・二八～三・二七・二七の羽田・エンター闘争を闘い抜く中で、学生運動の質を普段に獲得しつつ、七〇年安保へ向けての政府の大学自治―七四